

子どもの医療費無料化拡充・国の制度を求める

「緊急アンケート」(新日本婦人の会)に寄せられた声(一部抜粋)

●「頭痛をうったえている子どもを病院につれていこうとなれない。大きな病気だったらどうしようという不安がある」、「家族が住んでいる自治体では助成制度が受けられないため、毎月受けなきゃいけない1本5万円の注射(超未熟児で生まれたため)が自己負担になる。しかたがなく世帯を分離して、助成を受けられる自治体に住民票を置いている」という話を聞いたことがあります。(青森・青森)

●現在小学生2人の子育て中です。現在、病院に行くたびに窓口で200円を支払っています。以前、医療費補助のなかった時期には、上の子が小学生になったころ歯医者さんやお医者さんでかなり医療費がきつくて、その時に比べれば、とても助かっていますが、23区やお隣の府中ではもうとっくに完全無料だよ、ときくと遅れているんだなと実感します。やっぱりどこの町に住んでいようが子どもは同じ子どもです。どこの子もお医者さんに安心していけるように、所得制限なしで完全無料になってほしいと思います。とくに私たち子育て世代の経済状況がきつくなり、栄養状態や健康状態も心配な子どもも増えています。子どものいのちと人権の問題として、社会全体に責任があると思います。(東京・稲城)

●最近、都内の病院にかかりました。せっかく、医療費助成制度があるのに、自治体によって制度が違うので、償還払いで請求しなければなりません。受診のため仕事を休むので更に請求のために平日昼間に時間を作るのは大変です。日本中どこでも同じように子どもが受診できるように、子どもの医療費の無料化をお願いします。(千葉・船橋)

●私は小2、小5、小6の子育て中ですが、子どもは乳幼児の時に風邪などの感染症で小児科を受診する事が多く学童期になると骨折やケガで整形外科、虫歯で歯科、視力が悪くなり眼科、花粉症で耳鼻咽喉科に受診するようになります。早期発見、早期治療につなげ命と健康を守ることだけでなく健康増進の充実につながる助成制度を私達母親は強く求めています。とりわけ子どもの医療無料化は最も急がれる施策です。歯科医師のお話の中に「この子が痛いと訴えているところだけ治して下さい」と他の虫歯の処置を後まわしにせざるを得ない母親の事例が報告されました。医療負担の軽減は本来国の制度として確立すべきものです。どこに住んでいても子どもの命は平等です。全ての子どもの未来の為に小児医療費助成制度にむけ運動を拡げていきます。(神奈川・川崎)

●10歳、8歳、5歳の3人の子育てをしていて、小学生になり医療費がかかります。特に、3人それぞれアトピーやアレルギー性鼻炎など、アレルギー疾患を持っていて、一人あたり月に5000円、夫もぜんそくを持っていて、年間の医療費は20万円にもなり大変です。私の妹は名古屋にいますが、中3まで助成されています。友人の話聞いても横浜は遅れているなどと思います。こんな大都市で、財政力もある横浜がなぜこんなに遅れているのかと腹立たしく思っています。子育て支援するなら、せめて義務教育の間ぐらいはどこに住んでいても変わらない助成制度にしてほしい。(神奈川・横浜)

●医療費はなくてはならない出費です。収入の有無にかかわらず窓口で一旦支払いをする

のは、たくさん医療機関にかかる子どもや障がい者の親にとってはすごい負担です。ぜひ無料化をお願いします。(長野)

●500円の子ども医療費助成はあるが、入院の食事代は自己負担、娘が盲腸で入院したとき、重湯からはじまって食事が出たとき、食事は診療の一部だと感じた。地域によって違うのはおかしい。(静岡・浜松)

●県によって医療費の助成に差があるのはおかしい。せっかく国民の声を受けて窓口払いをナシにしようとしても国からペナルティが出るからと奈良県は渋っています。子ども医療費が家計費を圧迫しています。お金のことを考えるとなかなか行けません。(奈良)

●子どもの医療費を国で負担してください。全国均一に全額無料化にしてください。

私の娘が生まれたのは福島県でしたが、当時既に中学生まで無料化されており、NICUに入った娘の医療費もかからず、とても助かりました。震災後、原発の影響で18才まで無料化され、そのような生活が当たり前だと思っていたのは、豊中市に引っ越してから一部負担がかかるのでびっくりしました。子どもたちは皆平等に健康的な生活を営むべきだと思います。震災があったとかないとか関係なく、国民すべてが医療を受けられる世の中にしてほしい。(大阪・豊中)

●ママたちから切実に出されるのは、「給料は上がらない一方で、消費税・物価はどんどん上がり生活が苦しい。一週間の食費を6千円に抑えていたがさらに削って500円にしている。財布を気にして受診を控えてしまう」、「住んでいる自治体によって、子どもの命・健康に格差があるのはおかしい。子どもの命を最優先にしてほしい」という願いです。切実な思いが自治体を動かし、兵庫でも29自治体の中3まで無料になっていますが、県は3歳以上から窓口負担1回800円です。県として中学卒業まで無料にするように求めると、「市町村に裁量がある。また、国が無料化に踏み切ることこそ大切だ、県は助成年齢はトップクラスだ」と言い訳します。どこに住んでいても、親がどんな経済状態でも、安心して医療を受けられるように、国が無料化に踏み切ることを求めます。(兵庫)

●お隣の明石は中3まで無料なのに、神戸は3歳まで。遺伝性の難病を持つ会員もいる。駐車場代も高い、子ども3人いれば通院も大変。その上有料では重症化する。軽症のうち病院に行きたい。(兵庫・神戸)

●1日も早く！！国の責任で子どもたちの医療費無料化を制度化してください。現物給付する自治体への制裁をやめて下さい。子どもの扶養控除がなくなり、経済的にとても苦しい毎日です。一日も早く医療費無料を実現してください。松山市は小・中学校で実施している歯科検診で要治療と診断された小学生のうち44%が1年間何も治療を受けられずいます。お金がなくても病院に子どもを連れて行けるようにしてほしいです。(愛媛・松山)

●毎年、自治体(に)子どもの医療費の助成拡充の要望をあげています。自治体との話し合いの席でお母さんたちから「窓口給付にしてほしい」と切実な声があがります。自治体は県の制度にしてくれないと窓口給付はできない」と回答します。国で子ども医療費を中学卒業まで無料にしてほしい。(佐賀)